

# 「いざ、中世ロマン満載の多古城・並木城・志摩城へ！」の巻

## 【多古って?】 なんでこんなにお城がたくさん築かれた!?

多古城、並木城、志摩城は千葉県香取郡多古町にあります。かつて、九十九里浜から湾が入り込んでいた多古は昔から交通の要衝でした。出土するたくさんの丸木船からも水運が発達していたことがうかがえます。古代にはたくさんの古墳が造られ、力を持った豪族が住み、文化が発展していきました。

中世になると肥沃な多古の地を千葉氏が領地とし、勢力を拡大していきました。

そして南北朝動乱期に入ると、千葉氏の内紛などで戦乱が増え、多古にはたくさんの城が築かれることになったのです。



多古を語る上で一番のカギになるのが、「水運」です。これを抜きには、多古の歴史も城も見えてきません。多古はもともと「多湖」だったとされ、まさに水上交通と切っても切り離せないエリアなのです。「並木」の由来も「浪来」だったと言われ、城の台地に立つと、眼下の水田地帯がまるで一面の海に見えてきます。特に志摩城はまさに海にポカンと浮かぶ「島」さながら!!  
ぜひ、現地でタイムスリップ気分を味わってください。名残りである栗山川が想像を掻き立ててくれます。

多古の新米かあさん  
「ふっくらたまこ」です

遊びに来てね!



東京駅から多古台バスターミナルまで  
高速バスで100分! いざ、出陣!!

多古には他にも個性的な城がいっぱい!

山城や城跡めぐりの醍醐味は現地  
で感じる臨場感!  
ぜひ、現地に足をお運びくださいね。



### 《多古城と城下町》



ここでは城下町を紹介!

「多古城」は多古町の中心となる台地上にあり、その東に城下町があります。多古城の城下町は戦国時代の中頃に街道筋（佐倉街道）の商業町として発達したと言われてます。徳川時代に入ると多古城の台地の麓に多古陣屋が置かれ、近世の城下町が形成されました。そのため、鍵形の道路や枡形の跡などが町中に残っているとともに、明治時代の郵便局建物や商家も現存し、小さいながらも商業で栄えた近世城下町を感じる風情ある町並みです。

### 《並木城と城下町》

並木城下町は城山の麓をぐるりと囲むように展開しています。ふらり歩くと、あちこちに残る長屋門に圧倒されます。かつては7つの長屋門があったとされ、今でも5つの長屋門が私達を迎えてくれます。長屋門は家格を示すものであり、これらからも並木に存在したかつての武家の姿が垣間見えます。そして今でも城下には、並木城の家臣団であったとされる「飯田」姓が多く存在し、中世から脈々と歴史が繋がっていることに感動します。

### 《志摩城と城下町》

志摩城の城下町は城の西側に独立丘に広がり、中世期以降の環濠集落の姿が残っています。さらに敵を防ぐために迷路のような道が設計されていて、私達を集落に迷い込ませ混乱させます。江戸時代には禁教だった日蓮宗不受不施派の信者が多かったので、取り締まりを逃れるための工夫が町の随所に残ります。家々は高い生垣で囲まれ、敷地内には隣家に通じる抜け道が存在します。訪れた人を古のまま時間が止まったかのような錯覚にいざなう城下町といえます。(各家の抜け穴は私有地のため見学不可。妙見神社の裏に見学可能な抜け穴あり)

おいしい多古米も忘れちゃいけません! 笑  
多古産コシヒカリのブランド米です♡  
元は海だった多古の土壌にはミネラルが  
いっぱい含まれてます!  
「おかずのいらない米」の称号をもつ多古米は  
道の駅多古あじさい館で買い求めいただけます。

多古米のおいしさの  
秘密はかつて多古に  
広がってた「海」!

どの城も城下町が  
風情あって素敵♡  
ぶらり歩いてみてね。



山城ガールむつみ